# 鑑賞教育方法としての美術感想文の可能性（２）

―質問法による解釈の事例―

新井　義史

北海道教育大学釧路校　美術教育講座

# Possibility of the Fine Arts Book Report as the Appreciation Educational Method (2)

―The example of the interpretation using the question method―

ARAI　Yoshifumi

Department of Art Education, Kushiro Campus, Hokkaido University of Education

概要

「読書感想文」は，かねてから学校教育の一環として盛んに行われてきた．しかし，美術作品をもとに感想を記述する活動は，これまでほとんど行われてはこなかった．筆者は，美術作品を見て記述した感想文を「美術感想文」と呼び，その方法を演習や課題に組み込んで実践してきた．

前稿では「自由記述」による感想文を分析した．本稿では，シャガール「誕生日」および，クレー「パルナッソス山へ」の２種類の絵画を鑑賞対象とし，「質問法」を取り入れた感想文の分析結果を報告した．

結果に関しては，２作品に対する学生の記述内容を分類・要約して一覧表にまとめる形で整理した．シャガール作品については，疑問とその解明内容および記述スタイル等について検討した．クレー作品では，絵画情報のみによる解釈と，文献資料を参考にした場合の解釈の相違等について論じた．まとめでは，美術感想文における質問法の扱い方と，感想文を教育活動に活用することの効用に関する意見を述べた．

## １，はじめに

前稿では，ミロおよびワイエスの２作家の代表作について，「自由記述法」によって記述された，学生の感想文の内容について検討した．そこでは，感想文の内容を「文」の単位に分解し，感想内容のタイプ別，および文章表現の傾向を分類整理した（**註１**）．

今回は，「質問法」を取り入れた感想文の分析結果を報告したい．「質問法」を用いた課題は，「自由記述法」による２種類の感想文課題に続くプログラムとして筆者が実施しているものである（**註２**）．

教育活動の面から言えば，前回の２課題では，

作品を「じっくり観る」姿勢を持たせる点にウエイトを置くものであった．今回の課題では，それを一歩進めて次の４点にポイントを置いた．

「疑問の発見」

「主観的解釈」

「客観的解釈」

「資料による理解」

いずれもが鑑賞教育における重要な観点であり，これらに関連する質問を行った．

本稿は，この質問に対する学生たちの多様な発言や解釈を整理して報告するものである．

## ２，調査方法

### (1)課題の内容

指定した２枚の絵画のカラー図版を与え，次のような課題を課した．

| |
|---|
| A：**シャガール「誕生日」（図 1）**<br>① 自由な感想を記述する<br>② 疑問点をいくつか挙げ自分なりに解明してみる． |
| B：**クレー「パルナッソス山へ」（図２）**<br>① 何を描いたものだろう．<br>② なぜこのような描き方をしたのだろう<br>③ クレーはどのような人だろう． |

### (2)調査日時および対象者など

前稿を参照されたい．

### (3)感想文の素材

**Ａ：シャガール「誕生日」**

シャガールの作品は我が国において最も人気が高いもののひとつである．描かれている内容は，夢幻的なイメージを持ち情緒に訴えかけるものである．また，華麗な色彩を持ち，平面化されたモダンな手法を用いている．

今回，題材に採りあげた作品は「誕生日」と名付けられた，シャガールの代表作とも呼びうるものである．この作品の内容には，スラブ人としての民族的要因は含まれているものの，謎めいた象徴はほとんど描かれてはいない．したがって，素直な連想によって解釈可能な作品であり，幅広い年齢や鑑賞レベルの異なる者であっても相応の解釈が可能だろう．

**Ｂ：クレー「パルナッソス山へ」**

パウル・クレーは，ピカソやマティス，ミロと並ぶモダニズム絵画の創始者の一人である．自由で素朴な子供の表現活動をベースに置いた実験絵画に取り組んだことで知られている．

「パルナッソス山へ」の作品は，一見すると自然の情景を半具象的に描いたものと見えながら，実のところは，音楽に造詣が深いクレーが，音楽文法を絵画表現に転用した実験的な作品である．

純粋な抽象作品を正しく解釈しうるにはある程度の予備知識が必要である．しかしクレーのような具象形体のイメージを残しているスタイルの半具象作品は，抽象作品理解の入門期のレッスンに適した作品といえよう．

### (4)文章の記述方法

今回の２種類の課題では，幾つかの質問に文章で答えさせるスタイルをとった．したがってそれは，「感想文」と言うよりも「質問への回答文」と呼ぶ方が正しいのだろう．

一般的に感想文といえば，各個人が自由な立場で記述したものを指すだろう．それに対して，質問に答えさせることは，意識を意図的に誘導することになる．したがって，その場合には，感想文とは異なるものではあるが，便宜上それらも「美術感想文」と呼ぶことにしたい．

今回提示した２作品は，もともと疑問点を生じさせやすい内容を持つ絵画を選定したつもりである．

いずれの感想文も，授業時間外の各自の自由時間を使い記述させた．記述する分量は 800～1200 字程度とした．

### (5)質問内容について

**１）シャガール作品**

シャガール作品では,「疑問点をいくつか挙げ自

分なりに解明してみる」という課題を設定した．自分が感じた「疑問点」を幾つか採りあげて，自らが答えるという内容である．それは,「自問自答」をさらに一歩進めた,解明のための活動といえる．

**２）クレー作品**

クレー「パルナッソス山へ」の場合には，明確な課題（疑問）を３点設定した．

「①何を描いたものだろう」は，作品のテーマは何かを問うものである．

「②なぜこのような描き方をしたのだろう」は，クレーが特殊な表現手法を選択した理由を聞いている．

「③クレーはどのような人だろう」は，作者クレーの人柄を尋ねたつもりである．

## ３，結果

**(1) シャガール「誕生日」**

44 名からの回答があった．疑問およびその解明を抜き出して「表 1」にて示した，

**(2) クレー「パルナッソス山へ」**

46 名からの回答があった．３つの質問への回答を個人別に要約して「表２」にて示した，

表の左列の数字は，課題提出者の各個人を示す．また，グレーの網掛け部分は，学生たちが何らかの「文献資料」を調べた上で記載した内容であることを示している．

## ４，結果の分析

### (1) シャガール「誕生日」

**１）疑問の種類**

表１には,「誕生日」の作品から生じた「疑問」とその「解明」を一覧で示した．或る一枚の作品に関して生じる疑問というものは，限りなくあるわけではない．今回の「疑問」内容は，以下の４種類に大別することが可能であった．

**「①男性に関する疑問」**

**「②女性に関する疑問」**

**「③室内表現に関する疑問」**

**「④それ以外の内容に関する疑問」**

**①男性に関する疑問**

a.なぜ宙に浮いているのか

b.なぜ腕が無いのか

c.なぜ首と体が違う方向を向いているのか

d.なぜ体が曲がっているのか

e.なぜこんなに首が長いのか

f.なぜ顔色が悪いのか

g.目が無いように見える

**②女性に関する疑問**

h.なぜ驚いた表情をしているのか

i.目を見開いているのはなぜか

j.足が浮かびあがりそう

k.前方に転びそう

l.片腕がない

m.服が背景にとけ込んでいる

**③室内表現に関する疑問**

n.部屋がゆがんでいる

o.二人の陰がない

p.部屋が平面的だ・遠近感がない

q.テーブルが傾いている

r.椅子が不自然

s.テーブル上のコップと皿の見え方が変だ

t.床と壁の境界が適当

**④それ以外の内容に関する疑問**

u.どちらの誕生日なのか？

v.なぜタイトルが誕生日なのか？

w.壁の布はなぜこんなに細かく描き込んであるのか

x.口から人が出ている

y.二人の関係は？

z.昼か夜か？

**２）解明内容**

**a）男の姿の解明**

シャガール作品の鑑賞では，多くの者が常識的な思考を超越した表現に対する驚きを表明し，さらに子供が描いたような素朴で平面的な描画手法への疑念を記述した．

今回の課題内容では，初めに「感想」を記述し，その後「疑問とその解明」を記述させた．したがって学生は初めに１０行程度の「感想」を記述しているのであるが，そこではほぼ全員が作品から受けた印象を，「奇妙」「不思議」「不可解」「変な」「不気味」「非現実的」「気味悪い」「驚いた」「幻想的」のように表現している．

中でも，男性の体勢が尋常なものでないことに関しては，ほとんど全員が指摘していた．この男性は実は作者であるシャガール自身が描かれたものであるが，次のような異様な姿で描かれている．

「青白い顔色の青年は，腕もなく軟体動物のような体つきで浮かび上がり，長い首を大きく曲げて女性にキスしている」

しかし，なぜシャガールが男性をこのように描いたのかという理由に関しては，学生たちからは異なる解釈がなされていた．以下，解釈の例をあげてみる．

ⅰ）<u>「幽霊説」男性は死人であり霊としてそこに現れた場面</u>

*この男性は「幽霊」だろう．後ろ向きにジャンプして首をぐるりとひねっている．幽霊ならばどんな格好だろうと不思議はない．女性と比べると顔色が悪く血の気がない．女性は突然幽霊にキスされたから驚いているのだろう．*

ⅱ）<u>男性が亡くなっていることを絵の鑑賞者に知らせるため</u>

*この二人は恋人同士であり今日はこの男性の誕生日です．しかし誕生日を迎える直前にこの男性は亡くなってしまったのです．そのために男性は宙に浮き腕がなく顔色が悪いのです．しかし女性は男性の死を知らずにいるのでなにも気づいておらずとても幸せそうなのです．*

ⅲ）<u>彼女の心の中のイメージとして描かれている</u>

*この彼は実際にこの場にはおらず遠くの地から彼女に誕生日の花束を贈ったのではないでしょうか．彼を非現実的に描くことによって感情を鑑賞者に解らせていると思います．*

ⅳ）<u>男性の喜びに浮き浮きした感情表現である</u>

*このふわふわ浮遊した状態はまさしく日本で言う嬉しくて「天にも昇る気持ち」「地に足が着かない」気持ちを表しているのでしょう．自分の誕生日に花束を持って彼女が来てくれて嬉しくて舞い上がってキスしてしまったという場面です．*

ⅰ）～ⅳ）までの４種類の解釈のうち，ⅰ）に類する記述をした者が最も多かった．いずれの解釈もそれなりの合理性を備えており間違いとは言えない．しかし，絵の中に描かれている女性「ベラ」本人の説明を参照すると，2 人は喜びにより浮遊し，窓から外に出ようとする場面であるとされる．したがって，4 つの解釈の中では「ⅳ」の解釈が最も近いものである**（註３）**．

**b）室内表現の解明**

シャガールの描き方は，パリにおいて接触したピカソやマティスなど，当時のモダニズム絵画の影響を受けていることは良く知られている．ただし，そうした美術史的知識が無い者にとっては，シャガールの室内表現は異様に感じられ，疑問を生じさせることになるだろう．

「部屋がゆがんでいる」，「部屋が平面的だ・遠近感がない」その他，椅子やテーブル，コップや皿の表現がおかしいとの指摘が多く挙げられた．

なお，本課題の実施直前の授業では，セザンヌを例に取り，モダニズムの思考・手法を授業にて説明した．シャガール作品の平面的で省略化された表現方法を，セザンヌ解説と関連させた解釈を行った者もいた（表１に太字部分で示した）．

ⅰ）<u>感情を強く表すために省略や強調をおこなった</u>

*シャガールは見えるものをそのまま写実的に描くことよりも現実にあるものを省略したり強調することの方が人の心の底*

*にある思いや感情を表すことができると考えたのに違いない．そのことにより幻想的で不思議なシャガール独自の世界が作り上げられたのだろう．*

ⅱ）<u>主役を引き立たせるため</u>

*壁と床の境目がグジャグジャでどこが本当の境目なのかはっきりしない．しかも机は壁にべったり張り付いてしまい立体感が無い．女性の顔や花束，壁に貼られた布やベッドなどは比較的はっきりと描かれているがその他のものは適当に省略してある．これは「主役」となるものを引き立てるためではないのか．*

ⅲ）<u>自分の感覚的真実を「記憶」により描こうとしたから</u>

*部屋がゆがんでいるように見える．これは実際にシャガールが感じた真実をそのまま描いたのだと思う．人物のバックに写実的な空間が描かれていたとしたらきっと人物だけが浮いてしまうことだろう．シャガールがかつて見た「記憶を描いた」からこのようになったのではないだろうか．*

ⅳ）<u>技術が未熟だと考えたがその後調べてみるとモダニズムの画家たちの影響だということが解った</u>

*私の考えではシャガールはデッサンなどの勉強をしないで独学で描いていたと思っていたのですが，調べた結果彼は独自のレアリスムを確立するにあたってフォービスムのマティスほかゴッホやゴーギャンといった画家，さらにはキュビスムから複数の視点で描くことを学んだことが影響してシャガール独特の描き方が生まれたのだということがわかりました．*

これら４種類のいずれもが論理的な解釈であることには間違いない．しかし，表現様式の由来にまで言及している点では，ⅳの説明が最も説得力あることは納得できるだろう．

**c）それ以外の疑問の解明**

男性女性どちらの「誕生日」なのかは，多くの者が疑問に感じたようであった．

ⅰ）<u>「女性の誕生日」</u>

*描かれている部屋の飾りや色合いが明るく華やかだから，これは女性の部屋だと思う．また花束は誕生日を祝いに来た男性にもらったものだと考えられるから女性の誕生日であると考える．*

ⅱ）<u>「女性の誕生日」</u>

*女性が真ん中に描いてあることから女性の誕生日で，男性が祝ってくれているように見える．*

ⅲ）<u>「男性の誕生日」</u>

*女の人が持っているのはこれから男の人にあげようとしている花だろう．だから男性の誕生日だ．*

ⅳ）<u>「男性の誕生日」</u>

*彼の誕生日にこの女性が祝っているのだろう．その証拠に彼女は花束を持っている．そうした愛とか喜びとかが彼を浮かせているのだろう．*

タイトルが「誕生日」であることを情報として知らせておくことは，この作品鑑賞に際しては極めて重要なことである．もしも題名が誕生日であることを知らなければ，女性が手に持っている花束の意味や，テーブルの上の赤いブツブツがある白い円がケーキであるだろうことも推測が難しいかもしれない．

この疑問に関しても，作者本人による記述によれば，ⅳの解釈が正当であることが分かる．

**３）解明の記述スタイル**

記述文は大別すると次の３タイプに区別できた．

**１）未解明スタイル**（疑問の多くが未解明）

**２）主観的解明スタイル**（自分なりの解釈を示す）

**３）客観的解明スタイル**（他文献などを調べる）

１）は，疑問を提示することはできているものの，その多くが未解明のままの場合である．２）

は，主観的ながらも幾種類かの解釈を示すことが出来るようになっている．さらに，３）では文献を調べることで客観的な解釈を求めた場合と言えるだろう．以下に，この３種類のスタイルの代表例を示した．

ｉ）未解明スタイル（疑問の多くが未解明）

*この絵で疑問といえばやはり男性だろう．女性も異質な感じがするが男性は明らかにおかしい．宙に浮いているし顔も青白いしやはり幽霊なのだろうかと考えてしまう．よくよく見ると腕がないばかりか目もないように見える．女性の見開かれた目が男性を捉えていないように見えるのも不自然だ．さらに床と壁の境界線などが曖昧に描かれている部分が多いのも疑問だ．なぜこのような描き方をしたのだろう．女性の服の一部も境界がはっきりせずに壁にとけ込んでしまっているところがある．男性の描き方でもそうだが曖昧ではっきりしない描き方で現実味が薄い．夢のような雰囲気を出すためなのだろうか．*

この文章には「疑問」と「解明（下線部分)」の両者とが含まれている．ただし，疑問点は見いだすものの解明作業はほとんど行われていない．多くの「疑問」に対し「解明」の部分はごくわずかしかない．

ⅱ）主観的解明スタイル（自分なりの解釈を示す）

***疑問１：どちらの誕生日なのか？***

*男の人が女性に花をプレゼントしたというのであれば女の人の誕生日ということになる．私は初めてこの絵を見た時からそうなのだろうと思っていたがこんな考え方もできることに気づいた．男の人の誕生日に女性が花を持ってやってきた所．絵を見ているうちにこちらが正しい気がしてきた．結局どっちなんでしょう？*

***疑問２：なぜ宙に浮いているのか？***

*喜びを表しているのではないかと思う．どっちの誕生日なのかはっきりとは分からないけれど，その時の自分の気持ちを体全体で表現しているのではないか？宙に舞い上がるほどうれしかったのだろう．*

ほとんどの学生はできるだけ客観的な解釈を求めながらも主観的な一つの解釈に満足していることが多い．しかしこの例に見られるようにひとつの疑問に対して複数の解釈の可能性を示す場合もある．

ⅲ）客観的解明スタイル（文献等による分析）

***疑問点１：なぜ宙に浮きさらに首が曲がっているのか？***

*これはシャガール独自の表現方法だ．宙に浮くといえばシャガールでそれは一般的には幻想的だといわれる．宙に浮くだけならまだしも首の曲がっているし腕もない足の組み方もおかしい．明らかにおかしいのだがしかしシャガール自身が感動したことの感情の表明なのだろう．*

***疑問点２：女性（ベラ）はなぜ驚いた表情なのか？***

*シャガールはベラの持ってきた花に大きく感動した．そして今すぐにでもその感謝の気持ちを表したいと思った．それが一瞬であったため突然のことにベラは驚いたのだろう．「1915 年の誕生日にベラは花束を持ってやってきた．私は貧しく私のそばに花などはなかった．私にとって花は人生の至福を意味するものだ」というシャガール自身の言葉を見つけた．私たちが思う以上に，きっとシャガールは花に価値を持っていたのだと思う*

生じた疑問点を何らかの文献を用いて解明しようとした者が６名いた．彼らは疑問を解明するため，あるいは検証のために「調べる」行為を行っている．

「ⅲ）客観的解明スタイル」のような記述内容は，もはや画集の解説文に見られる文章表現に近づいている．

## （２）クレー「パルナッソス山へ」

### １）質問の意図

「①何を描いたものだろう」

「②なぜこのような描き方をしたのだろう」

「③クレーはどのような人だろう」

この 3 種類の疑問には，2 種類の答え方が考えられる．ひとつは個人的な推測レベルの「主観的な解釈」である．もうひとつには，文献資料などによって得られる「客観的な解釈」である．

クレー作品の感想文は，学生に課した 4 種類の感想文の最後である．この課題の時点では，一通りの鑑賞方法論は講義の中で説明し終えている．学生の何割かは，すでに主観的な解釈には飽き足らずに，客観的な解釈を求める者も生じている．したがって，作品を観て，そこで感じた疑問点を，自主的に調べて記述する者がそろそろ出始めている．

クレーの「パルナッソス山へ」は，主観的に解釈することはもちろん可能である．しかし，インターネットや文献を調べることにより，目で見ただけでは分からない，作者クレーの制作意図を明確に確認することも可能な作品である．学生が，努力を惜しまずに資料を調べた場合に得られた「明快な解答」への満足感が得られるはずの作品なのである．

### ２）描画内容の分析

「パルナッソス山へ」は，クレーの作品の中でも記号性が相当強い作品である．通常の鑑賞者であれば，作品のタイトルから推測して，三角形をパルナッソス山と考えるだろう．そして，円を太陽と解釈し，それ以上の解釈を試みることは少ないと考えられる．

46 名のうち 31 名は主観的な解釈をしていた．そこでのイメージは，「山」・「ピラミッド」・「家」，そして「太陽」または「月」・「雲」や「ドア」などであった．

残りの 15 名は，図形的なクレーの表現を解釈するために，「文献資料」にあたっている．

その結果，「ギリシャ神話」，「神殿の門」など，クレーが元にした具体的なテーマを発見することができたのだった．もちろんこれらのテーマは，作品を目で見ただけでは決して想像しえない内容である．

「Ａ：何を描いたのか」の質問への回答として，「視覚情報（絵画の表面的な見かけ）のみ」による記述と，「文献資料」を調べた回答とを比較してみたい．

**ⅰ）視覚情報のみによる記述（その１）**

*後ろに見える三角形のものはパルナッソス山であろう．手前は何を描いたものだろうか．丸く入り口みたいになっているものがある．月なのか太陽なのかわからないが右上に出ている．山の下にある家の雰囲気でも描いたのであろうか．*

**ⅱ）視覚情報のみによる記述（その２）**

*「この絵は，山と湖がある所で，ちょうど朝日が昇ったところを描いているのだと思います．私は最初この絵を見たとき，山が直線で描かれているので思わず［ピラミッド？］と思ってしまいました．よくよく見てみると地面と湖の境界線が描かれているから違うのかなと思いました．きっとこの絵は，見えるものをそのまま描いたのではなく，景色を見て心で感じたことをそのまま描いているのだと思います．」*

**ⅲ）「文献資料」を調べた回答**

*第一印象は，夕暮れ時の家の風景かと思った．しかし，調べてみるとクレーがこの絵を描いた意図が分かってきた．この絵には元になる題材があることが分かった．ギリシャ神話が題材だったのだ．パルナッソス*

*はアポロ神が祭られた場所で，音楽と詩の聖地だったらしい．この神話をもとにクレーは三角形を山に，右上は太陽に，下の部分は神殿の門を描いたのだと分かった．*

授業にて課題を提示した際には，隠されたテーマがあることや，そのための文献があることには一切触れてはいない．15名の学生たちは，誰に言われたのでもなく，自主的に文献を探しだしたのであった．

おそらく，それまでの 10 回の講義の中で触れた，アレゴリーやイコノグラフィやイコノロジーといったイメージ解釈の方法に関する説明を受けたことが，自らの関心によって，画像の不明な意味を探ってみるという行動をとらせたのであろう**（註４）**．

### ３）なぜこんな描き方を？

クレーは，バウハウスで教鞭をとり，絵画理論以外に音楽理論にも精通していた．作風は独自の変遷をたどり，記号的な抽象形態に接近したが，音楽を連想させる詩情に満ちたものであった．1915年ごろ，クレーはこの作品に見られるような小さなドットを集積させた画面を数枚描いており，その内の一枚のタイトルは「ポリフォニー」とされている．

ポリフォニーは，複数の旋律の絡み合いのことを指す音楽用語である．「なぜこんな描き方を」の質問に対して，3 名の学生が「ポリフォニーの絵画への応用」と答えている．また，それ以外にも絵画技法と音楽とを関連させて答えた者が５名いた**（註５）**．

クレーの作品と音楽文法との関連は，文献にあたらない場合には見出し難いだろう．この８名の者は，明らかに文献資料を調べた上で回答をしているといえる．

視覚情報のみから解釈した学生の場合には，当然のことではあるが，点・線・面・色彩．タッチなど，造形要素の組み立てに関係した技術的側面からの解釈が多く記述されていた．

**ｉ）視覚情報による技法的観点**

a. 視覚的なリズムを生み出すから
b. 一つ一つの色を強調するため
c. 点と線のみで描くこと
d. パッチワークのようにしたかったのでは
e. 微妙な色合いを描くため
f. 離れると違った色に見える方法を実験…

**ⅱ）論理的ではないあいまいな解釈**

g.作品が高く売れるため
h.単純に描いたら興味がわかないから
i.普通の描き方に飽きたから
j.暖かな雰囲気を伝えられるから
k.印象に残るようにするため
l.目に見えないものを感じてほしいから

**ⅲ）「文献資料」を調べた回答**

m.芸術を極める長い道のりをモザイク的に表現
n.ポリフォニーと対位法の音楽のアイディアを…
o.音符のようにリズムとメロディを点で描いた
p.音楽も含めた総合芸術化から
q.音楽のポリフォニーの手法の絵画への活用

### ４）人柄に関する分析

19 世紀後半以後の絵画表現では，それ以前の「時代様式」に代わり「個人様式」が優勢になってきた．或る作家が固有の表現を自己主張することも多くなってきた．

クレーの作品は極めて抽象傾向が強いものである．作者の人柄を問う疑問は，このような抽象的な作品から，学生たちは作家の人柄をどの程度推測し得るものであるかとの関心により設定したものであった．

表２および下記に整理したように，多くの者が視覚情報のみから推測しているものの，ほぼ正当な判断が出来ていることが分かる．「繊細な・変わ

り者・几帳面・やさしいおじさん・感受性豊か」など，表現は異なるもののいずれもが的確な表現であろう．

それに対して，文献資料を調べた上で回答している者の場合は，主観的判断はほとんどなく，文献で調べた事実のみを記載する例が多く見られた．調べた略歴を延々と記述することに満足している者も５名いた．

**ｉ）視覚情報のみによる記述**

a.繊細な変わり者
b.几帳面な挑戦者
c.やさしいおじさん，繊細
d.几帳面，感受性豊か
e.無垢な心，理論的な人
f.新しいことに挑戦する人

**ⅱ）「文献資料」を調べた回答**

g.文献によるクレーの略歴の記述のみ
h.音楽の才能があった人
i.主夫をした人
j.色彩の音楽家と呼ばれた人

生じた疑問を文献等で調べ，そこから得た内容をさらに自分の解釈に反映させることが理想である．しかし，一旦調べることに関心を持った者は，次第に主観を述べることを避ける傾向に陥るといわれる．

客観的解釈を求める段階に至った者へは，調べ上げた文献資料を記述するだけに終わらせず，資料を参考にした上で，さらに妥当な解釈を引き出す活動に向かうように指導することが必要であろう．

## ５，まとめ

### (1)美術感想文における質問法の扱い方

鑑賞教育方法として，これまで一般的なものは「対話による方法」であった．これは，生徒と教師とが作品を媒介させ，「話し合い」を通じて意見を交換し，そこから何らかの解釈を導き出そうとする方法である．このスタイルは，学校教育の通常の授業方法と同様である．

しかし，授業時間の中で，美術作品に対する感想や考えを口頭で述べあう場合には，おそらく誰でも，周囲の意見によって自分の思考が影響を受けたり中断されたりするだろう．

それに対して，自由な時間を用いて，自分の感想や疑問を文章で記述する場合には，他人の考えや時間の制約を受けずに，ゆっくり味わいながら作品と対話することができるはずである．

「自由記述法」による美術感想文は，「作品をじっくり見る」，「作品を味わう」という観点を重視した方法であった．

それに対して，今回の「質問法」による文章記述は，「疑問の発見」，「主観的解釈」，「客観的解釈」，「資料による理解」などの観点にウエイトを置いたものである．そのような観点からの質問に対して思考することは，「観察内容を分析」し，「合理的な解釈」を導き出していく，思考トレーニングになると考えている．

これらは，一時期に獲得できるスキルではなく，段階的に可能になっていくものであろう．学生たちが記述した感想文の内容を見ると，同じ大学生とはいえ，主観的な解釈に満足している段階の者もいれば，客観的な解釈を求める姿勢が生じ始めた者もいる．生じた疑問を疑問のままにしておく者もいれば，自主的に調べる姿勢を持つ者もいる．

まずは，何ら制約を受けない「自由記述」によって，美術感想文を記述することに慣れること．その後，「質問法による感想文」のトレーニングを行うことは，個人が自分の力で少しずつ鑑賞能力をステップアップしうるための有効な手法であると考える．

### (2) 授業データ蓄積への活用

感想文を教育活動に組み込むことの効用としては，授業データの蓄積という点を挙げることができるだろう．

これまでの鑑賞教育で行われてきた方法は，口頭による意見交換のスタイルであり，発言内容を

残し難かった．

それに対して，作文による記述では個人における作品観察や解釈の内容が文字として残されることから，その内容を別人が参考にすることが可能である．さらに，それら多数の回答を整理し鑑賞の授業に活用することも可能になる．

これまで美術の鑑賞教育が不振であった理由のひとつには，鑑賞授業のデータ（記録）がほとんど残されて来なかったということが挙げられよう．鑑賞の授業を実施しようにも，教育者自身が鑑賞教育を受けた経験もなく，さらには参照すべき授業実践データが少なければ，子供たちからどのような発言があるのかも予測が出来ない．それがこれまでの鑑賞教育の状況であった．

美術鑑賞教育における「実践的データの蓄積」は急務である．今回の２点の作品に関する学生たちの回答は，内容を一覧表にまとめ上げることが可能であった．例えば対象者が中学生であったとしても，今回のデータを参考にすれば，発言内容が予測でき，それらを参考にして，教師が鑑賞の授業を開発できるのではないかと考えられる．

## ＜註＞

（註 1）「鑑賞教育方法としての美術感想文の可能性(1)―感想内容のタイプと美術感想文のスタイル分類―」，北海道教育大学紀要（教育科学編集）第 56 巻　第２号，平成 18 年２月，pp161－174

（註 2）14 回の実施授業のうち，自由記述法による「美術感想文」の課題は第３回目・第４回目に実施し，今回の「質問法」によるそれは第９回目・第 10 回目に実施した．その間には，平易なテーマで，入手しやすい文献を調べるレポートと，具体的で，答えやすい質問内容によるレポートを３題挟んでいる．

（註 3）ダニエル・マルシェッソー著 「シャガール―色彩の詩人」 （「知の再発見」双書）は，入門書であるが資料篇にて、「誕生日」制作時のエピソードをはじめ，シャガールの妻ベラの伝記的著作からの抜粋が豊富に記載されている．

（註 4）授業では，鑑賞活動の方法として，連想・感想・分析・解明などについて第四回～第７回にかけ，実例をあげてじっくりと紹介した．自主的に文献資料を探す行為は，これらの授業の中から生じていると思う．

（註５）「ポリフォニー」は，モノフォニーに対応する音楽用語である．多旋律の同時的な絡み合いを本領とし，10～17 世紀の西洋音楽の主要な形態であったとされる。多声音楽，複音楽とも言う．

## ＜参考・引用文献＞


１，ヴァージニア・ハガード,「シャガールとの日々（語られなかった７年間)」，西村書店，1997.

２，ダニエル・マルシェッソー,「シャガール―色彩の詩人」創元者，1999.

３，ジル ホロンスキー,「シャガール」， アート・ライブラリー，西村書店,2003

４，モニカ・ボーム=デュシェン,「シャガール」(岩波 世界の美術)，岩波書店，2001

５，高見 堅志郎,「シャガール」（ヴィヴァン 25 人の画家)，講談社，1995.

６，西田秀穂『パウル・クレーの芸術　ーその画材と技法とー』東北大学出版会,2005.

７，坂崎乙郎,「クレー」，美術出版社，1963

８，南原実　訳,「クレーの日記」，新潮社　1961

９，ピエール・ブーレーズ,「クレーの絵と音楽」，　筑摩書房，1994.

10,W.ハフトマン,「パウル・クレー　造形思考への道」，美術出版社，1982.


（釧路校　教授）